

The 2 Chome Times 平成26年12月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



NO199.

2014・12・25.

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイム月12月号

編集：企画・商業振興部、編集長：芹澤邦明

http://www.centergai2.com E-mail:centergai2@nifty.com

★月刊雑誌「KOBE グー」の名店案内

神戸三宮を中心にした情報誌、月刊「KOBE グー」はただのタウン誌ではなく、広域から来られる観光客の方々にも神戸を強くアピールする雑誌になってきている事を皆様はご存じでしょうか。近隣周辺のバスターミナル・空港・フェリーのみならず、神戸と種々の交通機関で直接結ばれている街々の拠点にもこれから用意されていくことになっています。観光客の方々がお食事やショッピングを楽しむ際に、各店舗の特色をこの「KOBE グー」を通じてお伝えできれば力強いツールになります。そのため只今「KOBE グー」に掲載する店舗の情報を数多く必要としています。記事を通じてご自分の店舗をアピールする絶好のチャンスです。掲載は無料ですので、皆様も積極的に御利用下さい。お申込みは「KOBE グー」にも明示されていますが、(株)神港ジャーナル社 (Fax:078-392-5578)、もしくはE-mailにて掲載情報内容を御記入のうえお申込み下さい。E-mail kobe-c@beach.ocn.ne.jpです。なお締切は毎月、前月の10日になっています。奮ってどうぞ！

★ストリートミュージアム10作目となる作品の作者、一井弘和氏の木彫展

来年で10作目となります作品がストリートミュージアムに埋め込まれますが、その作品の寄贈者である一井弘和氏の木彫展があべのハルカス近鉄本店のタワー館11階アートギャラリーで「彫刻的自然観2014」と題して、11月20日から26日まで開かれていました。一井弘和氏は1980年の神戸生まれで、東京芸大大学院で彫刻を専攻され、その後の精力的な活動で数多くの賞も受賞されている注目の若手作家です。それに(株)サンセンタープラザの理事をされておられる一井推彰氏の甥っ子さんに当たられ、神戸三宮と深い繋がりがあります。ギャラリーに飾られていたどの作品も色使いが本当に美しく澄んだ人物木彫で、一井氏によれば「虹、太陽、月、花などの自然と、家や夢と言った我々に身近なテーマをモチーフにして表現しました」とのことです。美しい色使いは天然の素材、例えば珊瑚・貝殻・鉱石のマラカイト・アズライト・金・雲母などが使われており、半永久的に色は変色しないのだそうです。驚きですね！来年の作品収蔵が待ち遠しいですね！



★映画「繕い裁つ人」で神戸がロケ地になりました

新春1月31日(土)に公開予定の映画「繕い裁つ人」の試写会に行ってきました。主演はあの中谷美紀さんで、その他に三浦貴大、片桐はいり、伊武雅刀、余貴美子、中尾ミエさん等々、豪華な顔ぶれです。実はこの映画は全てのシーンが兵庫県、それも主に神戸市で撮影されています。監督の三島有紀子さん自身も学生時代を兵庫県で過ごし、阪神・淡路大震災も経験された方で、地元の街を舞台に、人々の絆やものづくりの大切さを一コマ一コマ、心を込めて制作されたそうです。ロケ地には神戸大丸・モザイク・メリケンパーク・神戸どうぶつ王国・神戸女学院の図書館・異人館通り近辺にある喫茶店サンパウロ等々、親しみのある風景が満載されていま



す。三島監督は神戸の開港以来音楽、服飾、建築、食べ物など、色々な異国の文化が長い時の中で街に溶け込み、それらを生み出す職人さんの技術やこだわりといった魅力が溢れているのが神戸なのだと言われます。そして一度は震災でその多くを失いながらも、今の神戸の力強さとさらなる美しさに心動かされ、映画「繕い裁つ人」は絶対に神戸で撮影すると決められたそうです。その言葉通り、全てのシーンが細部に至るまで監督のこだわりが強く感じられる映画でした。主役の中谷さんの透明感のある美しさは言うに及ばず、映画そのものが絵画の様にすら感じられました。是非、皆様も新春に相応しいこの映画をご覧になり、神戸全体で盛り上げて行きましょう！

★安らかに 川西祐三郎先生、ありがとうございました

私達の街、三宮センター街2丁目のみならず、神戸市に多大な貢献をされた木版画家、川西祐三郎先生が12月5日にお亡くなりになりました。9日のお通夜には2丁目から会長、正副理事長が最後のお別れをして参りました。御承知のように私達の街、センター街2丁目の生田筋側入口とトアロード側入口に掲げられているステンドグラスは祐三郎先生のお父様、川西英先生の「神戸百景」の作品をモチーフにしたものであり、また神戸ワインのラベルにも同じ「神戸百景」からの作品が採用されています。息子様の祐三郎先生にはその許可を頂く際に大変お世話になりました。先生の作品も三宮センター街東通り商店街に代表作「港都栄光」がステンドグラスになって設置されています。神戸に生まれ、神戸に育ち、神戸をこよなく愛された祐三郎先生、天国から私達の街、ならびに街衆を見守っていて下さい。ご冥福をお祈りしております。



★今年最後の清掃ですね

今年最後の美化運動が16日（火）に行われました。寒い中を多くの組合員の皆様にご参集頂き感謝しております。「アートストリート」構想を目指している私達の街は「安全」、「清潔」でなければなりません。通りには来年で10作目の作品が収蔵されることは、もうご紹介いたしました。つまりセンター街2丁目の通りはもう美術館となってきているわけです。その美術館が汚れていたり、ゴミが落ちているようでは折角の美術作品も台無しになってしまいます。それにもう一つの狙いは街を通っていらっしゃる方々に組合員が一致団結して美化に取り組んでいるという私達の街の姿勢を積極的にアピールすることです。「この街はちょっと違うね」とか、「美術作品が路面に沢山収蔵されていて、夜間でも観賞できるよ！」とか来街者の方々に思ってもらったら嬉しいですね。美化活動は来年も毎月第3火曜日9時30分からです。美化活動の後は美味しいお茶とサンドイッチも待っていますので、どうぞご参加の程よろしく願いいたします。

★編集後記

KOBE 三宮・ひと街創り協議会の久利会長が先般来お伝えしている沖縄の闘病の中学生、松島良生（らい）君に神戸市役所の職員有志や神戸新聞厚生事業団からの寄付も含まれる100万円をお届けするために先月沖縄を再訪しました。「らい君を救う会」の富山共同代表に寄付金目録をお渡ししましたが、それだけではなく、心の病気と闘う神戸市内の女子高校生とその教師から託されたらい君を応援する手紙も渡されました。女子高校生は「心の病気を患って日々つらくおもうことがあるが、松島君も病気に打ち勝って元気になってほしいです」というメッセージを綴り、きつらい君に勇気を与えているはずですが。それに加えてもう一つ心温まるエピソードをご紹介します。それは久利会長が今回沖縄でタクシーを利用した際、運転手に沖縄訪問の理由を尋ねられ、事情を説明されると、その運転手の方が「乗車賃は要りません。沖縄の子供のためにありがとうございます」との受け答えがあったのだそうです。ちょっとした事なのかも

しれませんが、心を通わせた胸が熱くなるやり取りだと思うのです。皆様には本当に感謝するばかりです。私達の街も、今まで街を創って来られた諸先輩方がこんな小さな人としての心遣いを積み重ねて来られました。その伝統を引き継ぎ、より強く、深くして行きたいものです。今年一年間、御愛読ありがとうございました。どうぞ皆様良い新年をお迎えください。